

目的 前回報告(オ27回総会)と同じであるが本報告は、特に緑色野菜と動物性食品との嗜好関係を明らかにする。方法 すべて前回に等しい。調査人員：高年若年それぞれ男女別に4グループ、各180名；計720名。調査期間：昭和51年3月20日～同年6月10日までの83日間。

結果 緑色野菜を使った料理と嗜好段階との特徴的な関係は、表1に示す通り(1%以下表1 緑色野菜を使った料理と嗜好段階の危険率で有意)。可食者の多いものを食品別に野菜および料理を検討した結果は、表2に示す通り(1%以下の危険率で有意)。グループ別に可食者を検討すると食品別では、4グループのいずれも卵類との可食が最も多く、次いで若年者は獣鳥肉類、高年者は魚貝類との可食が多いことが明きらかった。緑色野菜と動物性食品との料理の可食者は、男子高年が最も多く前回報告と同一結果が認められた。動物性食品全体の嗜好平均値は2.9(「好きでも嫌いでもない」段階が3.0)で、平均値の最も高いものは、ねぎわけぎを使ったすき焼きが3.8で反対に最も低いものは、ピーマンを使ったかきのエ手鍋が1.8(「嫌い」が2.0)であった。

食品	料理	嗜好段階別			
		非常に好き好き	好きでも嫌いでもない	嫌い	非常に嫌い
獣鳥肉類	すき焼き	ねぎわけぎ 51.0 ^(%)	ねぎわけぎ 21.0 ^(%)	ピーマン 10.6 ^(%)	
魚貝類	たいの吸物	三つ葉 43.8	春菊 21.0	ピーマン 14.7	
卵類	茶わん蒸し	ほうれん草 40.6	三つ葉 27.8	ピーマン 13.9	

表2 可食者の多い緑色野菜と料理

食品	野菜	料理
獣鳥肉類	ねぎわけぎ 28.4 ^(%)	牛肉入りスープ 22.8 ^(%)
	ピーマン 18.1	すき焼き 22.5
魚貝類	ねぎわけぎ 24.9	たいの吸物 30.5
	春菊 20.3	ちり鍋 23.1
卵類	ほうれん草 31.5	茶わん蒸し 28.8
	三つ葉 28.3	かきエ手鍋 21.6